

おはなし三度笠

さわやかなすしおばら館で歌や踊りを披露

8月9日（水）、ボランティアグループの「おはなし三度笠」とその仲間たちが、さわやかなすしおばら館で歌や踊りを披露しました。

さわやかなすしおばら館は、新型コロナウイルス禍でのボランティアの受け入れを中止していましたが、入居されている皆さんに楽しんでいただけるよう、ボランティアの受け入れを再開していきたいとの相談がボランティアセンターにあり、今回の活動につながりました。



お揃いの着物を身にまとった踊り手が登場し、那須音頭の踊りから始まり、大東京音頭と続けて華麗な踊りを披露しました。次に、ギター漫談で笑いを誘い、藤山一郎の「影を慕いて」、美空ひばりの「悲しい酒」を歌い、聴いている方の中には、歌を懐かしみながら口ずさんでいる方もいました。歌の後には、衣装を替えた踊り手たちが登場し、「夜祭り囃子」を両手に持った鳴子でリズムを刻みながら踊りました。次に「バハマ・ママ」のノリのよいリズムに合わせて、軽快なステップの踊りも披露しました。最後は、「サザエさん」の曲で手や体を動かして楽しみました。

盛りだくさんの内容で、見ている皆さんに楽しんでいただくことができました。

